

住まいは、生き方 地球生活マガジン

2011 NOVEMBER

チルチンびと

69

隔月刊

定価980円

明日のための家

“質素の時代”を楽しむ

吉田桂一 / 安田滋 / 布居博 / 金田正夫

特別企画

脱原発

自然エネルギー時代の家づくり

省エネ・パッシブデザインの
家づくりに取り組む工務店事例17題

いま知りたい地震の基礎知識 / 暮らしの省エネ・節電術
パッシブ住宅の考え方と種類 / いざという時の災害対策グッズ

おだやかな空気がめぐる家——エアバス工法

長崎県 永代ハウス

事例 モデルハウス 道草の癒^{いえ}ベーシック

庭の木々とともに 家族が成長する家

写真●興水進 文●角丸泰子



創業より4半世紀にわたり、永代ハウスは日本の気候風土に合う木の住まいをつくってきた。エアバス工法による佐世保のモデルハウスでは、「家と庭と木の融合」という新しいテーマにもチャレンジ。木の味わいを暮らしのなかで感じられる家に。そんな願いがここにはこもっている。

若いお客さまにも
手の届く木の家を

昨年8月、佐世保市内に永代ハウスの新しいモデルハウス「道草の癒^{いえ}ベーシック」が誕生した。創業以来、本格的な木造住宅を手がける同社が若い世代に向けてつくった家である。具体的には、小さな子どもがいる4人家族を想定したという。

材は手頃な価格の杉が中心。とはいえ、九州産の低温乾燥材を構造材に、天然乾燥した大分県産の津江杉を床材に用いるなど、材へのこだわりは一貫している。壁は珪藻土と漆喰を部屋により使い分けた。それらは木と同じく調湿性にすぐれており、家のなかには心地よい空気が流れる。大量生産の可能な工業製品のよ

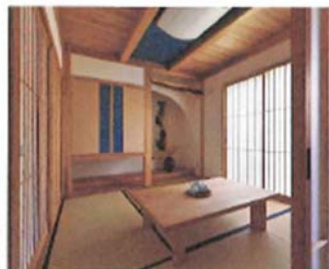


木が多く使われた外観は和の印象。2階にも大きなバルコニーを設置。庭の木々が家の外まで目を伸ばす。

吹き抜けのある居間は開放感があふれる。直に面した開口部から光が満ちる。窓が取り入れられた明るい、引き戸を開けると広がりがある。



上層/上階と下階の間で気配が伝わる。上層/2階の共用ホールも同様の構造。通り付けのカウンターは家族で共用する。左/子供室。真ん中に建具を入ると個室2室に。フレキシブルなつくりだ。右/モダンな趣の和室。建具で別室に。下/玄関ホールの玄関壁。移籍を描いた。



右より同社専務の中川正一さん、松村社長、経営戦略室の江上美代子さん。家づくりの話は尽きない。



右/水廻りの建具も職人の手づくり。左/玄関ホール、廊下の右がシューズクロークで、子ども自分で靴を仕舞う。



- DATA
- 所在地: 長崎県佐世市
 - 敷地面積: 191.27㎡
 - 延床面積: 129.50㎡ (1階 68.50㎡ 2階 61.00㎡)
 - 竣工: 2010年8月 (工期: 2010年4月-8月)
 - 設計: 永代ハウス-建築士事務所 TEL0956-23-7288
 - 施工: 永代ハウス
 - 構造形式: 木造2階建て
 - 主な外装仕上げ: 屋根/ガルバリウム鋼板瓦葺き
外壁/防炎サイディング-障子板張り 軒天等/杉板張り
 - 主な内装仕上げ: 天井/杉板張り 壁/漆喰仕上げ
床/杉板張り

ベースは「木の家」。ここではまた、新しいテーマ「家と庭と木の融合」にもチャレンジした。家を建てるだけでなく庭をつくり植樹することも工務店の仕事。そんな思いが背景にある。家の南側に落葉樹を植えると、夏は茂った葉が室内に光をあふれる。冬は葉が落ち室内に光があふれる。四季折々の自然を身近に感じる暮らしを表現しようと、松村社長の言葉に力がかかる。

「木とともに、子ども、いや、家族も成長するのがいい家ではないでしょうか。私どもは日本人の生活習慣に根ざした家を追求してきましたが、目標にもう一歩近づけたと自負しています」



玄関側より空間をみる。空間がつながっているため室内の温度差が少ない。

うな家が増え、さまざまな弊害が顕在化している昨今、特に子どもを抱えた若い両親にとって、毎日を安心して過ごせる自然素材の家は何より歓迎されるものに違いない。

設計面では1階を中心にLDKを配置した。和室も建具を削ぎ放つと一体になるほか、水回りまで空間がつながっている。さらに、視線は吹き抜けを介して2階まで延びる。家全体が大きなワンルームともいえるのではないか。

「はい。子育て中のお客さまには、どこにいてもお子さんの気配を感じられることが不可欠です。ここはコンパクトな家ながら、家族が自然に集まり会話を交わせることを念頭に置きました。また、設計をある程度まで規格化することでコストダウンを実現できたのも大きな特色です」

モデルハウスの特色を、松村清一



食卓。左にキッチンが、家事をしながら1人全体に目を配ることができる。

社長がこう説明してくださった。

新技術は導入するが「木の家」がベース

住まい手にも地球環境にもやさしい家づくりを掲げる同社だが、多くの取り組みの筆頭に挙げられるのがエアバス工法。機械や装置をいっさい使わず、自然の力を利用して暑さ寒さをやわらげる仕組みに惚れ込み、8年前、エアバスグループに入った。この工法で家を建てたお客さまからは快適という声が多く寄せられていた。

もう一つ、よく提案するのが電磁波対策を組み込んだ「オールアース住宅」。電磁場リスクを軽減するため床や壁と配線の間に有機導電性繊維を入れアース処理するもので、九州では同社しか手がけていない。

それらとあわせ、泡浸透膜浄水器「アクアアオリア」の設置もおすすめていく。これは一般の浄水器と比べて桁違いに多種類の有害物質を除去でき、NASAで採用された実績も、前述のオールアースともども、このモデルハウスにも導入した。

このように良いと判断したものは積極的に取り入れるが、あくまでも